



町会秋の催し

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋：青い空、紅葉も素敵な季節です。

今回は各町会が行っている秋の催しものにスポットをあててみましょう。

■双葉町会

公民館活動の一つとして親睦を図り、絆を深めるため、十月二十九日(水)町会役員マレットゴルフ親睦会を実施しました。当日は放射冷却による冷え込んだ寒い朝でしたが、抜けるような青空が広がり、絶好のゴルフ日和でした。

晩秋のアルプス公園マレットゴルフ場は良く整備され、プレーヤーも少なく、紅葉の下、結構なアップダウンも何のそのプレーに熱中しました。皆それぞれの笑顔や歓声で童心に帰った様に、躍動の中のプレーは印象深いものでした。二時間あまりの競技の後、心地よい汗をかき、記念撮影をした後、町内公民館に戻り昼食反省会を催しました。プレ

ーの反省やスコアメイクについても話し合い、楽しい時が経過しました。来月中旬には当町会最大のイベントである防災訓練が行われます。二つ二つのイベントを絆の下に実施していくと、の合意で散会しました。秋日を満喫した一日でした。



■宮田西町会

第 23 回宮田西文化祭が十一月八・九日に宮田西公民館で開催されました。八日午前は、高齢者クラブ西友会による「そば打ち体験会」が行われ、昼食で試食され好評でした。九日午前は、遊園地で防災訓練の一環として、館報松南版「人」で紹介した浅田修吉さんの指導による炊き出しのレクチャーを受け、昼食で美味しく

いただきました。盆栽、手芸、写真、絵、書道などの作品は 2 日間展示されました。9 日午前にはクラブの発表、小学生の演技、南京玉スタレ等を楽しみました。

懇親会はほろ酔い気分でもラオケで盛り上がり、文化祭が終了しました。

■南松本二丁目

南松本二丁目町会では秋に二つの大きなイベントを行っています。一つ目は 70 歳以上の方をご招待しての敬老の日祝賀会です。今年は九月十四日に盛大に行われました。机の上にはオリジナルテーブルシート、献花(参加者にお土産として贈呈)やお菓子、むつみ高校のバンド演奏、ビンゴゲーム、カラオケなどを楽しみました。

二つ目は町内作品展展示会です。今年は十月二十五〜二十六日に南松本二丁目公民館で行われました。作品は公民館活動発表、一般町民の手芸や写真・絵画など多種類で 40 名の方から 300 点ほど寄せられました。

地元の方から南松本保育園児の絵もほほえましいものでした。



■宮田中町会

昨年、我が町会の文化祭は中止とし、町会発足 50 年の式典を挙行しました。本年は十一月二十三日の祭日に公民館で文化祭を実施しました。町会各位の年間制作の作品展示、公民館活動サークルの発表、豪華景品を用意してのビンゴゲーム、及び、大抽選会で大いに盛り上がりました。児童の出席も多く、ノンアルコールの文化祭、慰労会となりました。

■南松本二丁目

十月三日、国立病院循環器内科医長・笠井宏樹先生による出前講座が開催されました。高血圧とは、血管がどんな状態になった場合なのか、基礎的な話が始まり、薬は血圧の数値がどの位になったら飲み始めるとか、高血圧の人の一日の塩分摂取量など、初歩的な事柄をスライドを使いながら、丁寧にわかり易く教えていただきました。急激な温度変化など、血圧の高い人にとって健康管理が難しい、これからの季節の過ごし方や注意事項もいくつか伺いました。最後に数名の方からの質問にも答えていただき、大変有意義な講座でした。出席者は二十六名でした。

■双葉南町会

私たちの町会は、毎年十一月に「焼きいも会」を開催して

います。町会発足当時は、狭い団地に暮らす子供たちに喜んでもらえればとの思いで始まった行事でしたが、子供たちの減少に伴い、総ての住民が楽しめるイベントへと変わってきました。

今ではサツマイモ 300 本をはじめ、豚汁、もつ煮を役員・ブロック長が前日から準備して、当日住民の方々に提供し、好評をいただいています。特に焼き芋の焼き方に関しては、様々な試行錯誤を繰り返してベストな焼き方を考えだしました。(門外不出ですが)これは、双葉南町会の伝統として守り続けたいと思っています。

■宮田東町会

公民館活動一大行事の二年に一度の文化祭が十一月九日の日曜日に行われました。

町会の皆さんから自慢の一品を展示願ひ、観てもらいました。絵画・習字・彫刻・菊・生花・手芸・レーザーカット等、多種多様の趣味の展示物が揃いました。珍しいものでは、真空管式ラジオ、戦前の国語・算数の教科書、ラジオは今でも放送が聞けるほど状態の良い物です。石臼の展示もあり、その石臼を使って手作りのキナコを作りました。また、50 人分ほどの豚汁を作り、おにぎりと一緒に昼食となり、歓談をしながら楽しいひと時を過ごしました。充実した一日でした。

わがまちのお宝〈芳野町会〉

芳野町のお宝は、唯一と言って良いだろうか：「芳野町公民館」の玄関に飾られている看板がそれである。新築された公民館にやや似つかわしくない深い趣きを感じさせる看板：

無造作に雨ざらしにされてきた長い月日がそのような雰囲気を訴えかける。

この書、この字、どこかで見えたことがある。という方は年齢を重ねた方であろう。そう、これは降旗徳弼元松本市長の筆によるものである。降旗市長は昭和三十三年三月より昭和四十四年三月まで、長期にわたり市長を務められ、長野県はもとより全国的にも発言力が強く、松本市の歴代の市長のなかでも特に実績を残された方であった。また、その字は大変特徴的である。いろいろな形で公共施設に残されている。

私ども芳野町公民館に「何故に？」との疑問に、その経緯を知る人、語れる人は今はもうこの町にはいない。

看板の裏にはただ 1964 年に作成されたものであることだけが雑に書かれているだけで、彫り人も判らないものの、しっかりとした彫は、それなりの方の手によるものと推察される。

松本の歴代の中でも名市長と評価される方による書の看板、大切にしなければと、新公民館建設を機に、漆で塗装をし直してみた。本当は本体を額装すればもっと良かったのであろうが：

芳野町公民館は芳野公園に面した場であり、この公園には三年前に山梨県北杜市から譲り受けた、日本三大桜の一つでもある「山高神代桜」が二本植えられ、昨年には花が咲き、今は大人の背丈ほどに育っている。芳野町の発展をこの看板と桜が見守ってくれているように心強い。

(編集委員 百瀬 壽)



ひと 有井ちか子さん

「結婚当初は嫁ぎ先が商売を

していたので、結構忙しかったんですよ」とおっしゃる有井ちか子さん。今は好きな趣味に没頭される余裕の日々を送っておいでです。過去には南松本二丁目の公民館報委員を六年間務めていただきました。

落ち葉の舞うなか、お宅を訪問させていただきました。

ました。玄関を入ったところにあるキャビネットには、たくさんのお人形が！これは石塑粘土という粘土を使うそうです。近づいてじっくり見せていただく、髪や顔の作りは手が込んでいて、細工が結構大変そう。一つ作るのに半年くらいかかるそうです。お部屋に

通させていただと、様々な鉢植えが並んでいてとても華やか。本物と見間違えうほどの樹脂粘土で作られたという花びらや葉は、一枚々型紙から取るのだそうです。粘土にもいろいろな種類があるんですね。教室に通い、教わりながら作

られているのですが、もともとの手先の器用さと根気良さが相まって、こんな美しい作品が次々と生まれるんですよ。

ほとんどメガネもかけずに暇を見つけてはコツコツと作られるそうです。「肩が張りませんか」と伺うと、「張ることもありませんよ」とのこと。以前はパッチワークもされていた、部屋の壁に飾られていました。細かい手仕事がお好きなんですね。日頃はスポーツクラブに通われて、汗を流していらっや

るそうです。南松本二丁目に嫁がれて 50 年、金婚式ですね。本当におめでとございます。

(編集委員 務台 亨子)

南部図書館職員の変動

10月1日付けで南部図書館職員の異動がありました。前任の内藤さん、新任の朝倉さんも野球の選手。活躍を期待します。よろしくお願します。

「前任」内藤喜章係長(保険課)
「新任」朝倉一樹課長補佐

コラム松南

「活火山」九月二十七日午前十時五十二分、水蒸気爆発による噴火を起こした御嶽山。予想できない出来事に大勢の登山者が犠牲となりました。

火山災害としては戦後最悪の被害とのこと。大きな爆発音もなく突然噴煙が上がり、何がなんだかわからず、噴煙に包まれた真っ暗な闇の恐怖：また、逃げ込んだ山荘でも、噴石が屋根から落ちてくる恐怖：想像を絶するというより想像できない異様な光景であったと思います。

私は木曾路が好きで、ゴミ、ワラビ、ウトブキ等の山菜採り、トウモロコシ、御嶽白菜、赤かぶ等の高原野菜、すんき漬け等を求め、また、露天風呂から御嶽を望むことができる開田高原「やまゆり荘」で温泉を楽しむため、年に数回ほど訪れていました。不幸にして犠牲となられた方々のご冥福をお祈りしたいと思います。

御嶽山が以前のように、皆に好かれ、また、尊厳のある岳に、そして、木曾の街が一刻も早く活性化された姿に戻れることを心から願っています。

(編集委員 金子 幸治)